

## 上田市地域公共交通総合連携計画

○総合連携計画の策定年月日 平成20年3月14日

○総合連携計画の区域 上田市全域

### ○基本的な方針

方針1: 鉄道との連携を図る公共交通体系の構築

- ・「新幹線」「しなの鉄道」「別所線」を活用すべき「公共財」として位置づけ、鉄道との連携強化を図る公共交通体系の構築を目指す。

方針2: 誰もが公平に利用できる公共交通体系の構築

- ・公共交通の果たすべき役割の原点に立ち返り、利用しようと思えば誰もが利用できる公共交通体系の構築を目指す。

方針3: 効率的な公共交通体系の構築

- ・運行上の観点から、効率的な公共交通体系の構築を目指す。

方針4: 地域づくりを支援する公共交通体系の構築

- ・上田市の特色ある地域、中心市街地等、まちづくりを側面から支援する公共交通体系の構築を目指す。

方針5: 利用者主体の公共交通体系の構築

- ・利用者があるて成り立つ公共交通であり、利用者の立場に立ち、利用してもらえる公共交通体系の構築を目指す。

### ○総合連携計画の目標

#### ≪総合的な目標≫

慣れ親しんできた既存の運行形態を最大限に活用し、誰もが公平に利用できる利用者主体の公共交通体系の確立を目指す。

#### ≪具体的目標≫

目標Ⅰ: バスの運行サービスレベルの引き上げ

- ・通勤・通学へのサービス対応率30%→70%
- ・中心市街地へのサービス対応率90%→100%

目標Ⅱ: バス利用者の満足度UP

- ・バス利用者満足度23%→30%

目標Ⅲ: バス利用者の拡大

- ・バス利用者1,001千人/年→1,027万人/年

上田市街地循環バス: 約30,000人(平成18年度実績値+約3,000人)

丸子地域循環バス : 約13,000人(平成18年度実績値+約4,000人)

目標Ⅳ: タクシー観光利用者増加

- ・年間200組→300組

### ○事業及び実施主体

- ・上田市街地循環バス実証運行(実施主体: 上田市公共交通活性化協議会)
- ・丸子地域循環バスの実証運行(実施主体: 上田市公共交通活性化協議会)
- ・傍陽線本原地区迂回実証運行(実施主体: 上田市公共交通活性化協議会)
- ・タクシー事業の活性化及びタクシーを活用した観光に資する事業  
(実施主体: 長野県タクシー協会)

### ○その他連携計画の実施に関し必要と認める事項

特に計画していない

## 上田市公共交通活性化協議会

設置年月日: 平成20年3月14日

構成員: 上田市

≪公共交通事業者等≫

上田バス(株)、千曲バス(株)、ジェイアールバス関東(株)小諸支店

(社)長野県バス協会、しなの鉄道(株)、上田電鉄(株)、長野県タクシー協会上小支部

千曲バス労働組合

≪道路管理者≫

国土交通省長野国道事務所、長野県上田建設事務所、

上田市都市建設部管理課

≪公安委員会≫

上田警察署

≪学識経験者≫

信州大学工学部土木工学科、上田女子短期大学総合文化学科

≪その他必要と認める者≫

上小圏域障害者総合支援センター、上田商工会議所卸・小売商業部会、

上田観光コンベンション協会、上田市婦人団体連絡協議会、

豊殿地域循環バス運営委員会、上田市身体障害者福祉協会

上小高等学校長会、上田市自治会連合会(上田・丸子・真田・武石各地域)

国土交通省北陸信越運輸局、国土交通省北陸信越運輸局長野運輸支局

長野県企画部交通政策課、長野県上小地方事務所地域政策課

# 上田市地域公共交通活性化・再生総合事業（計画事業 最終年度）の概要

平成22年度計画事業の位置図

●上田市街地循環バス 運行概要

- 分かり易さと親しみ易さを目指し、青バス・赤バスの名称を付けた。
- 循環方向を双方向循環とした。
- 東コース・西コースを直通運行とした。
- 従来の空白地域に新たにルートを設定した。
- 丸子地域循環バスとの共通回数券を販売した。

●傍陽線本原地区迂回実証運行

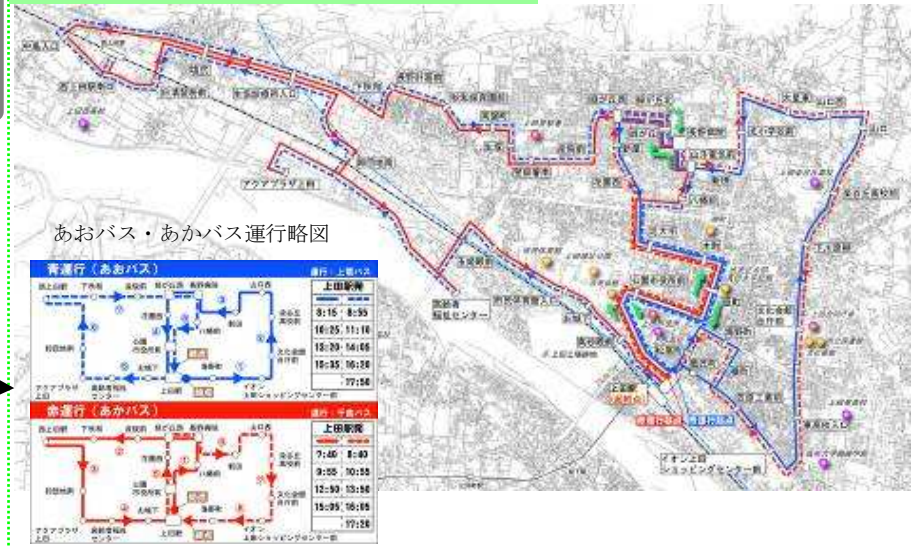
- バス利用が不便な「本原地区」を迂回するルートに変更し、本原地区の利便性を高めた。

●丸子地域循環バス

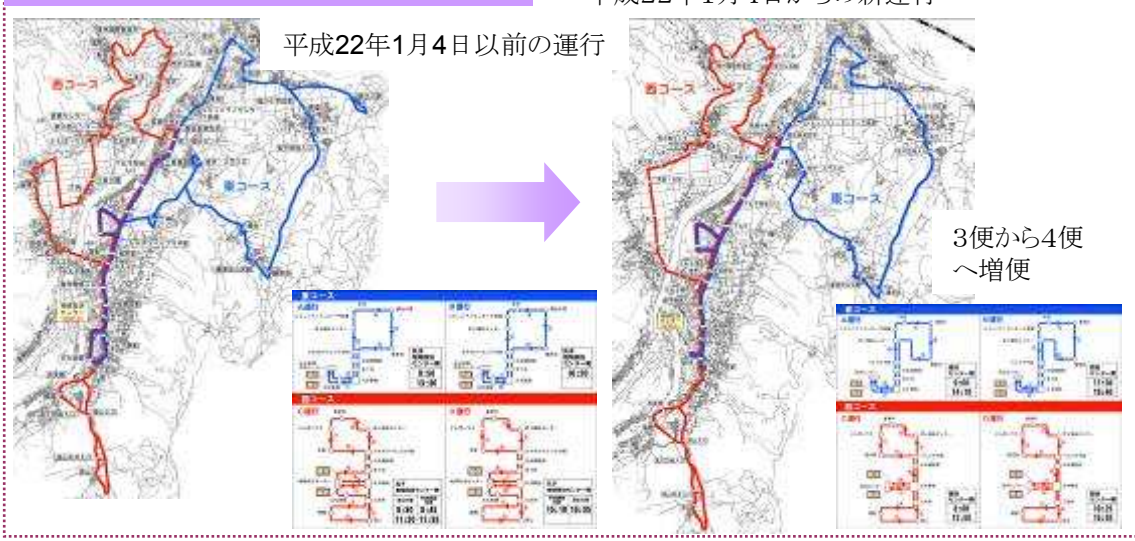
平成22年1月4日からの運行概要

- 利用の低いバス停を一部運行中止としルートの効率化を図った。
- 運行便数を各コース3便から4便へ増便。
- 利用の多い施設の利用時間に配慮したダイヤへ改正。
- 上田市街地循環バスとの共通回数券を販売。

上田市街地循環バス 運行概要の詳細



丸子地域循環バス 運行概要の詳細



タクシー事業の活性化及びタクシーを活用した観光に資する事業

●事業の対象地域: 上田市A地域（上田地域）

●事業の概要

- タクシー観光のための乗務員等接客レベルの向上のための研修
- 交通結節点であるJR上田駅タクシー乗り場へのタクシーアテンダントの設置
- 観光振興のため真田幸村及びその十勇士を主体とした観光PR
- AED車載タクシーの配置による緊急対応への可能化や防災連絡通報協力体制の確立といった、タクシーによる地域貢献活動

# 上田市地域公共交通活性化・再生総合事業（計画事業 最終年度）の概要

## 平成22年度事業実施概要

### 検討の経緯

（開催年月日及び検討された内容を記載して下さい。）

#### ■22年 7月：第6回協議会

- 22年実施事業（案）について
- ・上田市街地循環バス実証運行事業の利用実態調査結果に基づく見直し案の検討。
- ・運行ルート、ダイヤについて見直し基本方針を立て、具体的なルートの提示とダイヤの基本的考え方を示した。詳細については、今後、交通事業者、関係機関との調整を図ることとした。
- ・丸子地域循環バス実証運行事業案の内容確認。平成22年1月に見直したことにより、運行方法の確認と利用実態の報告、平成23年度への実証運行事業継続の確認を行った。
- ・タクシー事業の活性化及びタクシーを活用した観光に資する事業について、内容確認と取組状況を報告した。

#### ■23年 2月：第7回協議会（予定）

- ・22年度事業全体の実施結果と総括について
- ・23年度の本格実施に向けた事業内容の確認と財源確保等の課題整理について

## 事業実施状況及び今後の展望

事業名：上田市街地循環バス  
実証運行事業

＜実施主体＞  
法定協議会

・4月：実証運行継続



実績（最終目標値）

- ・年間輸送人員  
23,500人(30,000人)
- ※実績はH21年度
- ・輸送人員推移  
19,900人：H22年4月～12月  
17,400人：前年同時期

→輸送人員は最終目標値を達成することは出来なかった。輸送人員推移では、前年同時期比約2,500人増加した。

・本格運行移行に向け、輸送人員の更なる確保が課題。来春、沿線に大型商業施設開店もあることから、運行の見直しが必要。

・今後も、事業を持続していくためには、最低限現状の利用者数を維持し、少しでも利用者数の伸びを確保することが必要。利用実態調査結果及び大型商業施設開店に合わせた見直し案を第7回協議会で審議予定。

事業名：丸子地域循環バス  
実証運行事業

＜実施主体＞  
法定協議会

・22年1月：見直しを実施



実績（最終目標値）

- ・年間輸送人員  
7,300人(13,000人)
- ※実績はH21年度
- ・輸送人員推移  
6,400人：H22年4月～12月  
5,500人：前年同時期

→輸送人員は最終目標値を達成することは出来なかった。輸送人員推移では、前年同時期比約900人増加した。

・本格運行移行に向け、輸送人員の更なる確保が課題。ただし、平成22年1月に見直し後、日数が浅いため、今後の利用動向注視が必要である。

・今後も、事業を継続していくためには、最低限現状の利用者数を維持し、少しでも利用者数の伸びを確保することが必要。H22年1月に見直したことから、利用動向を今後も把握していく予定。

事業名：傍陽線本原地区迂回  
実証運行

＜実施主体＞  
法定協議会

・22年10月：実証運行開始

実績（目標値：前年度実績）

- ・期間輸送人員  
10,400人：H22年10月～12月  
(9,400人)
- ・満足度：約30%  
(不満足約10%)

→期間輸送人員は変更前の同時期と比較し約1,000人増加した。満足度は満足との回答率が不満足を約20ポイント上回った。

・利用者が増加し、利用者からも好意的に受け止められている。  
・迂回による時刻変更による不満など、更に利用状況を分析する必要がある。

・当事業は実証運行を開始してから日が浅いため、検証が不十分であると考えられる。周知はもとより、利用動向の把握分析を行い、持続していけるよう、利用者確保に努めていく予定。

事業名：タクシー事業の活性化  
及びタクシーを活用した観光に  
資する事業

＜実施主体＞

長野県タクシー協会

- ・6月：アテンダント配置
- ・7月：ご意見箱設置
- ・7月：観光振興



実績：各指標H22年12月時点  
(目標値)

- ・年間タクシー観光利用者：  
288組(300組)
- ・苦情件数：6件(前年度9件)
- ・満足度：  
約80%(前年度約60%)

→年間タクシー観光利用者数は現状推移を維持出来れば目標達成が見込め、前年度よりも46組増加した。さらに苦情件数は3件減少し、満足度は20ポイント向上した。

・目標は達成出来たが、今後、特に「アテンダント事業」については更なるサービス向上策実施が課題。

・サービス向上に向け、事業者・商工関係者・ボランティア等による観光振興の連携強化の取り組みが、定例化されつつある。

# 上田市地域公共交通活性化・再生総合事業（計画事業 最終年度）の概要

## 前年度二次評価結果等に係る事業の概要

### 二次評価における主な指摘事項

- ・当該事業の本格実施に向けて、今後も予定される利用実態調査を活用し、問題点の検証を期待します。
- ・協議会の議事概要の公表等の更新を含め、今後も継続して公表していくことを期待する。
- ・本格運行に向け、地域関係者による自主的な利用促進、さまざまな財政支援の取り組み、将来の地域負担のあり方の検討をしていくことが望ましい。

### 二次評価に係る主な事業実施状況

- ・今年度においても、利用実態調査を複数回予定し、平成22年12月現在で4回実施している。利用者数については毎日日報としてデータ蓄積に取り組んでおり、今後も継続し、問題点検証基礎資料に役立てる。
- ・上田市のホームページに連携計画、協議会の規約、また会議毎に資料、議事録を整理し掲載している。併せて、公共交通の時刻表や路線図といった情報も掲示しており、本格運行移行後も継続していく考えである。
- ・昨年度、協議会ではバスを乗って残していくための目標値と見直し基準を定め、今後は地域とも連携し地域公共交通に取り組んでいきたい考えであり、随時地元住民との懇談会及び説明会を実施していく予定である。

## 今年度事業のポイント

### 地域住民・利用者の意見を反映させた点

（地域住民の意見がどのように反映されたか記載して下さい。）

- ・上田市街地循環バスは、利用者の意向及び利用実態の把握を行い、来春以降ルート及びダイヤの見直し、新たなバス停の設置を行うこととした。
- ・丸子地域循環バスは、上記と同様の調査及び利用者からの直接の声を元に、運行ルート、ダイヤを改正し実証運行を行った。
- ・傍陽線本原地区迂回実証運行は、地元住民と懇談会の開催や、バス停利用者の実態を調査した上で、ルートや迂回便の特定を行った。

### 協議会及び各構成員が特に工夫して取り組んだ点

#### 【協議会】

- ・協議会では地域住民の意見を直接取り入れるため、地域の代表者を委員として参加してもらい、地域の意見の反映を図れる組織とした。

#### 【自治体】

- ・主に事業展開が行われる地区において、事業内容、上田市公共交通の実情等の地元説明会を実施し、公共交通に対する意識向上のための取り組みを行った。
- ・主に実証運行事業について、詳細な利用者数データ、利用者の意識を掴むため、複数回の調査を計画し、利用者主体の公共交通に向け取り組んだ。

#### 【事業者】

- ・実際の運行計画立案時には、利用者の生の声、乗務員からの意見等を反映させ、事業者の視線で自治体を連携し計画立案に取り組んだ。
- ・地域住民への上田市公共交通の実態等について説明するなど、事業者としての住民への説明を今後は行っていく予定である。

#### 【地域住民】

- ・地元の自治会など、自治組織で公共交通を取り上げ、実証運行など、公共交通に対する話し合いを行った。
- ・バス停のベンチに座布団を置いたり、公共交通の路線図や時刻表を掲示といった取り組みもされている。